

北日本新聞 二〇一五年八月二日付け

「大空襲七〇年 平和祈る」の記事を  
読んで

二年 山本 美佑

新聞の一面をかざる美しい色とりどりの花  
火。そして、その花火に見とれている人々の  
姿。これまで私はずつと花火といえは「夏の  
お祭り」というイメージを持っていました。  
でも、何げなく記事を読んでいくと、「富山  
大空襲」、「鎮魂」という言葉が目に入り、  
私は一瞬どきどきしました。

花火は、富山大空襲で亡くなられた人々の  
鎮魂と復興、平和への祈りを込めて、昭和二  
十二年に始まりました。

私は、よく祖父から戦争の話を聞きます。  
富山市であつた空襲は、祖父の住んでいた小  
水市にも影響を及ぼしたそうです。祖父は小  
さいながら戦争のことはよく覚えていると言  
います。炎で赤く燃えていたのを、今でも目  
に焼きついていると。

花火の美しさだけに気をとられて、うかれ  
ていた自分がとてもはずかしなりました。戦  
争を体験した人々にと。この花火は、あの  
恐ろしか。た夏の日を思い出す特別なもので  
ある事、そして、七くな。た人を思い、二  
度と戦争をしてはならない。という平和への  
願いを思い起こすき。かけにな。こいる事を  
私達は知らなければいけないと思うのです。

今は花火を見に行。てもお祭りさわざで、  
その本当の意味を教えこくれる人はいません。  
平成に生まれた私たちは、七十年も前の戦争  
の様子を、テレビや新聞などの記事で知るし  
かないのです。花火を見て元気をもら。たり、  
幸せを感じたり、それはとてもすばらしいこ  
とです。でも、その陰でっらい思いをしながら  
ら平和を祈り続けている人達がいることを、  
私はこの新聞記事から学びました。  
そして、戦争の恐ろしさをより多くの人達  
に知。てもらうために、納涼花火の記事をこ  
れからも書き続けてほしいと思いました。